KANUMA NO MEISHO

鹿沼の名匠

黒崎 孝雄（くろさき たかお）

◆彫刻屋台の彫工

黒崎 孝雄

彫工、黒崎孝雄さんの作業場には、修理中の彫刻と、数多くの歴史的資料が並んでいます。

「彫刻の後ろ側にある、人や時代背景、風土が好きなんですよ」と黒崎さん。風土に合った暮らしからその土地の性格は生まれ、それは彫刻にも映し出されます。彫刻を忠実に復元・修理するために、作り手の作風や作られた時代の流行を調べ、その人ならどうするかを、まず考えるそうです。

黒崎さんが一番好きなのは江戸時代の彫刻。「活気とにぎわいが彫刻に現れ、迫力があるよね」と話します。

意匠を木に彫り込むので、細かい設計図はありません。書いた下絵を木材に写し、彫り進めます。木槌で叩きながら粗彫りし、それから細かく小彫りをします。彫刻の道具は三百本以上あり、普段使うものだけでも五十本ほどを使い分けます。

彫刻屋台は町のもの。その町の個性や背景を大事にして彫刻のデザインを考えます。最近手掛けた上野町は、明治に出来た駅がシンボル。荷馬車が往来するようになったので屋台の彫刻には竜馬を施しました。

秋祭りで囃子方と若衆が乗り込み、動いて初めて彫刻屋台は完成します。「彫刻屋台は芸術じゃなくて祭りの道具。蔵に入っているときは休んでいるときだからね」と話す黒崎さん。動いた屋台の姿を思い描き、彫刻のデザインをしています。

たくさんの屋台が繰り出す鹿沼の秋祭り。黒崎さんの手掛けた屋台も街を巡ります。「お祭りを見に来てほしい」と語る黒崎さん。街を躍動する彫刻屋台、その迫力を肌で感じることが出来ます。

鹿沼市